

提 言 書

かがやきの文化都市部会

テーマ：教育について

～地域とともに目指す、いじめ・不登校ゼロ、学力・学習環境日本一に向けて～

1 はじめに

一昨年来より、岡山県下では、公立学校におけるいじめ・不登校等の認知件数が、全国の上位にあるという状況が続いている。殊に不登校については、小学校、中学校、高等学校のどの段階でも、一校あたりの出現率が全国平均を上回っているという事態にある。(資料 平成23年度岡山県ホームページから)

こうしたなか新見市での状況はどうか。

市内においていじめについては、小学校3件、中学校2件、不登校については、小学校5件、中学校23件という出現状況にある。(資料 平成23年度文部科学省 問題行動調査から)

このいじめ・不登校については、本人、保護者はもとより教育関係者や地域にとっても対策に取り組まなければならない喫緊の課題であると認識する。

では、学力面での現状はどうか。平成24年4月に中学1年生を対象に実施された岡山県学力学習状況調査において新見市は、参加17市町教委の中で上位3位にある。ただ、岡山県の学力は、平成24年度全国学力・学習状況調査では正答率で小学6年生が45位、中学3年生が42位と厳しい状況にあり、学力の向上も何らかの対策が必要であると考え。

もとより新見市は、安全安心のまちづくりを推進し、住民の日常生活においては、恵まれた気候風土とも相俟って、良好な生活環境が行政・住民の相互連携の協力の下維持されている。この安全安心なまちづくりの政策を「教育」の分野でも推し進めていくべきではないかと考える。

一方で新見市では、全国に先駆けてITを利用した学習活動が取り入れられ、なかでもタブレット端末を使用しての授業は、双方向性に優れ、児童生徒の理解力や学習意欲の向上に役立っている。また、教育現場を住民がサポートする学校支援ボランティアも各学校で定着しつつあり、県下でも模範となる学校もあり、先を見据えた教育活動が行政、教育現場、地域が一体となって進められていることも認識する。

こうした良好な学習環境をどの児童生徒にも等しく享受させ、日々の学校生活を楽しく充実したものにしていくために、学校とどう連携し、どのように行政と関りあいながら地域としてどのような支援ができるのか。

このような視点から、当部会では、教育について地域住民が、子供たちを学校や行政とともに育てるという理念に基づき、地域が支援するための具体的内容として、以下の通り提言する。

2 提 言

(1) いじめ・不登校ゼロをめざす

(2) 学力・学習環境日本一をめざす

3 具体的内容

現在実施されている先進的な教育行政の成果を十分に認識しつつ、さらに定着、向上していくために保護者・住民とともにいかに取り組むかを以下の内容で示す。

(1) いじめ・不登校ゼロをめざすについて

- ① いじめ・不登校の実態を正確に把握するため、原因の調査分析と解決策の検討を行う。
 - ② ホームページを開設し、相談窓口の広報、情報公開と対応の透明化を図る。
 - ③ 教師の研修制度の充実と複数担任制度の拡充
 - ④ 児童、生徒間の信頼関係の構築、先生への気軽な相談体制の確立と児童会、生徒会の機能充実
 - ⑤ 不登校児童・生徒への学習補完の対応と地域との連携強化
 - ⑥ 保護者同士の交流をはかるためのフェイスブックの活用
 - ⑦ 学校カウンセラー、相談員の活動実態の広報周知
 - ⑧ 学校支援ボランティアの拡充と地域連携担当制度の利用定着
- 上記の内容を実行するための市長を中心にしたゼロプロジェクトチームの発足

(2) 学力・学習環境日本一をめざすについて

- ① 「分かる授業」の継続と基礎学力の強化のための多様な指導体制の確保
- ② 新見市 ICT 活用教育推進事業の一層の充実
- ③ 特色ある学校づくりのため、自然環境や体験を重視した授業・行事の取り入れ
- ④ 図書館、美術館を有効利用した学習活動の実施
- ⑤ 地域スポーツ団体との交流と利用
- ⑥ 地域の伝統文化や行事を伝承するため、公民館活動や文化財保護活動への参加
- ⑦ 保護者の社会参加、地域行事への参加促進
- ⑧ 学校施設の整備充実と児童・生徒の体型に適した学習机(新見産木材製)の提供
- ⑨ 学校支援ボランティアの活用促進のための条件整備

学校とボランティア、保護者との交流や情報交換、意見調整のためのミーティングルームの設置

上記の内容を実行するための市長を中心とした日本一プロジェクトチームの発足。

4 まとめ

地域を支える子供たちが、笑顔で登校し、笑顔で家に帰る。

この新見市ならそんな教育が受けられる。見知らぬ人に対してもきちんと挨拶できる新見市の子供たちの良さをさらに伸ばしていくために、わたしたち地域の大人がどう協力していけるのか。このことを念頭に入れて議論を継続してきた。

この議論を通して新見市が現在行っている先進的な教育関連の各種の事業を把握し、如何にこの地域が、教育するのに潜在的に優れているかを改めて認識した次第である。

については、子供の問題解決力を尊重し、さらなる新見の教育力向上にむけて上記内容を提言する。

以上